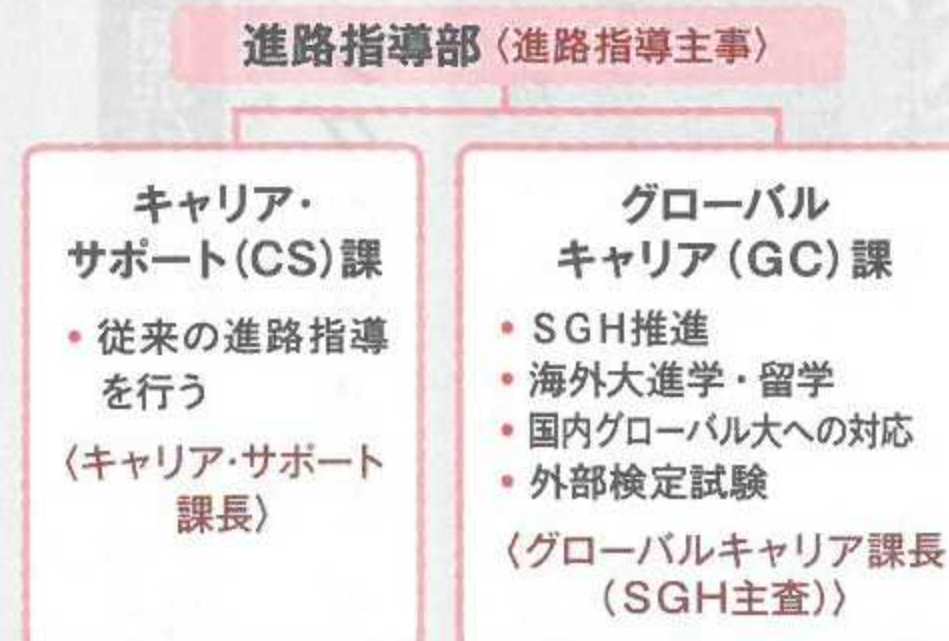


「グローバルキャリア課」を設置し活動を推進

熊本県立済々黌高校は、SGH推進に向けた組織改編を中心に発表した。同校は、国際的素養を備え世界をリードする人材の育成を目指し、「SGクラス」(1年生2クラス、2年生1クラス)を設置し、2つのプロジェクトに取り組む。「リサーチプロジェクト」では、「持続可能性を確保する開発と地球環境保全のあり方」をテーマに、1年生はグループ研究と論文作成、2年生から3年生にかけて個人研究で英語論文を作成する。「コミュニケーションプロジェクト」では、1年生は英語で議論や意見を発表できる力の育成、2年生は実践的なコミュニケーション力を習得すると共に、日本の文化・歴史などの教養を身に付ける。

2015年度には、課題であった

図3 組織改編後の進路指導部



*熊本県立済々黌高校の資料を基に編集部で作成

SGHの学校全体への波及に向け、進路指導部に、従来の進路指導を担う「キャリア・サポート(CS)課」と、SGH推進や海外大進学・留学などを担当する「グローバルキャリア(GC)課」を設定した(図3)。

GC課の大きな目的であるSGHプロジェクト推進のために、週1回、GC課の教員に加え、進路指導主事や各学年主任が参加する「GC課会」を実施。GC課会で検討された企画は、管理職なども参加する「SG企

画委員会」での検討を経て実行する。GC課と連携し、例年、各学年で実施する進路講演会にグローバルな要素が強い講師を招くなど、進路行事の「SG化」にも取り組む。大学入試改革への対応も、GC課の重要な役割だ。「多面的評価に向け、教育課程全体の中にSGプロジェクトや各種活動をどう位置付けるかを設計している」と、鶴濱正悟先生は説明する。外部検定試験では、全生徒が受検するGTEC for STUDENTSに加え、15年度からSGクラスではGTEC Speaking Testも受検することにした。更に、20年度に実施が予定されている「大学入学希望者学力評価テスト(仮称)」に備え、読解力や論述力、思考力などを測定するタスクパフォーマンス型の「課題解決力テスト」を独自に開発し、今年度は1年生で実施した。

その他、海外大進学や留学への対応などもGC課が担う。「GC課を中心に未来型の進路指導として、グローバルなキャリア観を育みたい。更に指定終了後もGC課がSGHで培った教育資産を発展的に継承していく」と、鶴濱先生は先を見据えて語った。



熊本県立済々黌高校
グローバルキャリア課
課長

鶴濱正悟

つるはま・せいご